

「子ども一人一人の学力向上を目指して」

-推進地域・登別市が目指した「基礎的・基本的な内容の確実な定着と学習習慣の確立」の取組-

北海道教育委員会

はじめに

4年間の全国学力・学習状況調査の調査結果を通して、基礎・基本の定着、学習習慣の確立、生活習慣・生活リズムの確立、読書活動の充実などが本道の課題であることが明らかになった。

これらの課題解決に向け、子どもが日々の授業で分かる、できる授業づくりを目指した教員研修の充実や、家庭における望ましい生活習慣や学習習慣の確立に向けた保護者や地域住民への啓発を進めるとともに、全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善の取組などを進めてきた。

そこで、確かな学力の育成に係る実践的調査研究において学校、保護者、地域が一体となって学力向上に積極的に取り組む「全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究」の推進地域として登別市を指定し、その成果を全道に普及啓発することとした。

I. 都道府県・指定都市教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

推進地域内の小学校には、北海道における課題と同様に、基礎的・基本的な知識や技能を活用する力の育成に課題が見られる。また、これまでの全国学力・学習状況調査の結果において学校間の学力の差が大きいことが明らかになった。

このようなことから、推進地域においては、教員の指導技術の向上や家庭における学習習慣の形成を目指していく中で、域内の共通理解を図り、取り組む体制の整備や効果的に機能する仕組みづくりが求められている。

以上のことを踏まえ、登別市（推進校－登別市立幌別小学校、協力校－登別市立幌別東小学校・登別市立登別小学校）における取組を、北海道の学力向上に向けての取組モデルとして「学ぶ意欲をはぐくむ」、「活用する力を高める」、「学習習慣を身に付けさせる」ことに取り組み、その成果を域内及び北海道全域に普及啓発を図ることとした。

① アクションプラン推進協議会の設置

推進地域内の課題の明確化やその解決に向けて、登別市教育課程検討委員会と連携し、北海道教育委員会、登別市教育委員会、登別市校長会、大学教授等の学識経験者からなる「アクションプラン推進協議会」（以下、「推進協議会」と言う）を設置し、協議等を行った。

アクションプラン推進協議会の概要

○推進協議会組織

- ・登別市教育委員会担当者
- ・推進校及び協力校校長
- ・北海道教育大学教授
- ・北海道教育委員会

○第1回（8月）

- ・域内の「学力向上アクションプラン」の策定

○第2回（3月）

- ・学力向上アクションプランの成果と課題
- ・次年度の学力向上対策の検討

○状況の分析と課題

推進協議会では、全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、次の点を域内の小・中学校等の課題として示した。

小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aは3年間で初めて全道平均を上回る ・話すこと、聞くことの領域に課題 ・問題形式では、記述式に課題
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・算数A・Bともに、ほぼ全道平均に近くなり、改善傾向 ・改善は見られるものの全国に比べ依然差がある ・図形の領域に課題
	学習習慣 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に1時間以上取り組む児童は全国比10p以上の差がある ・家庭学習を全くしない児童が8% ・読書時間が短く、全くしないと答えた児童が31%
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに全国に比べ大きな差がある ・言語事項に全国に比べ大きな差がある ・国語A・Bともに、昨年度の結果を下回る
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的事項の定着が十分でない ・全道平均が全国に近づく中、本市では大きく下回った
	学習習慣 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間が、1時間未満の生徒が50%を越えており、土日の学習時間も全国と比べて低い ・学校のきまりを守るという生徒が、全国に比べ10p以上の差があり規範意識が低い

○目標指標・評価方法の設定

推進協議会においては、次のとおり目標指標・評価方法を設定し、取組の客観的な評価を行った。

◆指標1	<p>意欲的に学習に取り組む児童の割合を上昇させる。 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童による授業評価を活用し、学習意欲にかかわる評価項目を設定する。 <p>(達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組んでいると回答する児童の割合の上昇
◆指標2	<p>活用する力を高める。 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査のB問題の正答率により把握する。 <p>(達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査のB問題の全国比較による標準化得点105以上
◆指標3	<p>家庭学習に取り組む児童の割合を上昇させる。 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や学校評議員によるアンケートを実施する。 <p>(達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に学習習慣が身に付いたと回答する保護者の割合の上昇

② 登別市教育課程検討委員会の設置

推進地域では、これまでの全国学力・学習状況調査の結果等から明らかになった課題の解決を目指し、教育課程検討委員会を設置した。検討委員会では、推進地域の「学力向上アクションプラン」を策定し、「学ぶ意欲をはぐくむ」、「活用する力を高める」、「学習習慣を身に付けさせる」ことを柱に推進地域内の各学校が共通して取組を展開し、学力の向上を推進した。

登別市教育課程検討委員会の概要

○委員会組織

- ・教育委員会担当者
- ・校長会研究部長
- ・市内小・中学校教頭
- ・市内小・中学校教務主任又は研究部長

○第1回（6月）

- ・登別市学力向上アクションプランの検討
- ・各学校の学力向上プランの交流

○第2回（10月）

- ・平成22年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び今後の対策について
- ・北海道教育委員会が作成した国語、算数・数学の基礎・基本問題「チャレンジテスト」の活用について
- ・全国学力・学習状況調査の調査問題の活用について
- ・指導方法の工夫改善について

○第3回（2月）

- ・今年度の学力向上に向けた取組について
- ・成果の普及啓発について

○各学校における学力向上プランの作成

推進協議会において、全国学力・学習状況調査で明らかになった課題の解決に向け、次のような「学力向上プラン」の様式を示し、推進地域内の小・中学校が共通の視点で取組を展開できるよう配慮した。

登別市〇〇学校 学力向上プラン

I 子どもの実態

- ☆基礎的・基本的な知識・技能の定着状況
- ☆思考力・判断力・表現力の状況
- ☆学習意欲や態度の状況

II 全国学力・学習状況調査の結果から

- ☆過去の結果を教科ごとに分析
- ☆学習状況調査から見られる児童生徒の実態

III これまでの取組

- ☆昨年度取り組んだ学力向上対策
例：朝読書、家庭学習、校内研修、少人数指導、TT、日常の授業改善

IV 本年度の目標

- 目標1 基礎・基本の定着
- 目標2 活用する力
- 目標3 学習習慣の確立

V 具体的な方策

- ☆継続して取り組む内容、変更・強化して取り組む内容、新たに取り組む内容
- ☆「いつ」、「だれが」、「どのように」行うのかを記入する。
- ☆校区内において小・中学校の連携した取組があれば記入する。

VI 評価

- ☆次の観点で学校ごとに評価を行う。
- ◆指標1 意欲的に学習に取り組む児童の割合を向上させる。
評価方法 児童による授業評価で、学習意欲にかかわる評価項目を設定する。
☆1学期、3学期の2回実施し状況の変化をとらえる。

1	学校の勉強はよくわかる。	学習の理解	A・B C・D
2	計算・漢字・音読などは繰り返し練習しようと思う	基礎・基本	A・B C・D
3	考えたり調べたりすることは楽しい	応用力	A・B C・D
4	先生や友達の話をしっかり聞いている	話す・聞く	A・B C・D
5	わからない問題でもがんばってやろうと思う	学習への意欲	A・B C・D
6	自分で決めたためあてはやり通そうと思う	学習の計画性	A・B C・D
7	宿題や家庭学習は大切だと思う	家庭での学習	A・B C・D

- A・・・そう思う B・・・まあそう思う
- C・・・あまりそう思わない D・・・そう思わない

- ◆指標2 活用する力を高める。
評価方法 全国学力・学習状況調査のB問題の正答率により把握する。
達成目標 全国学力・学習状況調査のB問題の正答率向上
☆次年度の全国学力・学習状況調査との比較で検証する。

- ◆指標3 家庭学習に取り組む児童の割合を上昇させる。
評価方法 保護者や学校評議員によるアンケートを実施する。
☆各学校で取り組んでいる保護者アンケートの中で実施する

1	進んで家庭学習に取り組んでいる	意欲	A・B C・D
2	家庭学習への取り組み方を理解している	理解	A・B C・D
3	自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる	計画性	A・B C・D
4	家庭学習の内容を工夫している	応用力	A・B C・D

- A・・・そう思う B・・・まあそう思う
- C・・・あまりそう思わない D・・・そう思わない

- ③ 学力向上プラン教育フォーラムの開催
学力向上の推進校及び協力校の取組の成果を普及し、学校、家庭、地域が一体となって学力向上に取り組み、共通理解を図ることを目的に、学識経験者等を講師とした教育フォーラムを開催した。

フォーラム概要 10月開催

- ・推進校、協力校による発表
- ・北海道教育大学の相馬教授による「授業改善の在り方」に関する講演

- ④ 推進校及び協力校における公開研究会の開催
「学ぶ意欲」、「活用する力」、「学習習慣」を高め、推進校や協力校の課題を解決するための授業公開を行った。研究協議では、自校の学力向上プランに基づく実践について協議を行った。
○推進校 登別市立梶別小学校（10月）
○協力校 登別市立登別小学校（9月）

- ⑤ 補充的な学習サポートの実施
全国学力・学習状況調査の結果から、授業以外の学習時間の確保に課題が見られることから、推進地域内の小・中学校において、冬季休業中を活用し、補充的な学習サポートを実施した。

- ⑥ 学力向上に向けた研修会の実施
北海道教育委員会で作成した「全国学力・学習状況調査 調査結果報告書」を活用し、域内の各小・中学校において研修会を実施し、北海道の取組について共通理解を図った。

- ⑦ 北海道教育委員会の取組の活用

巡回指導教員活用事業

北海道教育委員会では、平成22年度から、豊かな経験と確かな指導力を有する教員を巡回指導教員として配置し、勤務校での業務やティーム・ティーチングはもとより、若手教員を有する近隣の学校を兼務校とし、若手教員等に対する、授業づくりへ

の支援やチーム・ティーチングによる学習指導等を行っており、登別市においても本事業を活用している。

巡回指導教員・・・男性1名 教職経験18年

本務校・・・登別市幌別小学校(週12時間)

兼務校・・・登別市立幌別東小学校(週2時間)
登別市立登別小学校(週2時間)

巡回指導教員の業務概要

本務校及び兼務校の若手教員等を対象に、次の業務を行った。

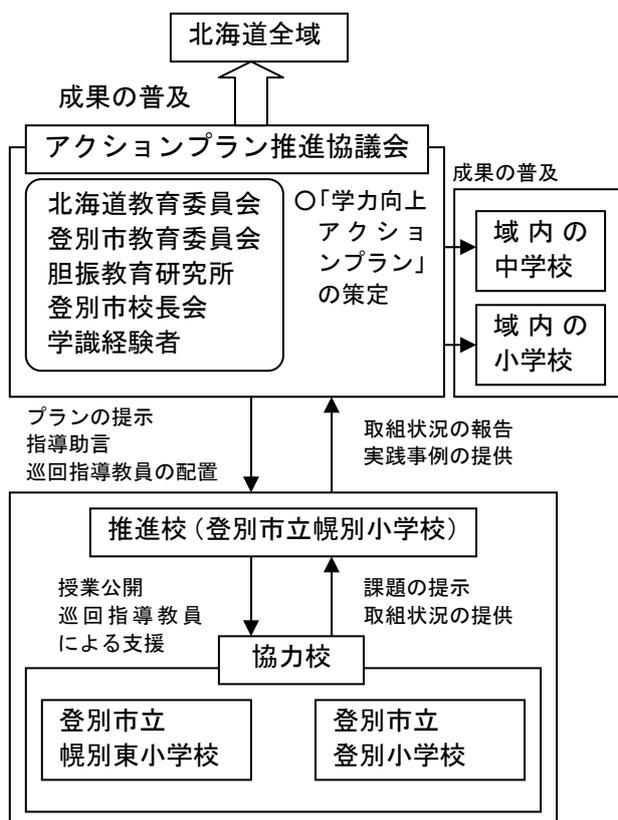
- ・巡回指導教員の授業公開
- ・若手教員等とのチーム・ティーチング
- ・若手教員等への授業づくり等の指導助言

「チャレンジテスト」の活用

全国学力・学習状況調査の課題である基礎・基本の定着に向け、北海道教育委員会が独自に作成した国語、算数・数学における基礎問題「チャレンジテスト」を活用した。

- ・授業、放課後、宿題、長期休業中において活用
- ・全道一斉に取り組む「チャレンジテストトライやるウィーク」への参加

(2) 実施体制



(3) 研究成果

○子どもたちの学力の実態について、共通理解を図る中で、学力向上が学校のための課題ではなく、家庭を含め、学校間が連携するなど推進地域としての取組が必要であるという課題意識が醸成された。

○推進地域において「学力向上アクションプラン」を策定することにより、域内のすべての小・中学校が共通して取り組むべき事項が明らかになり、北海道教育委員会作成のチャレンジテストや、長期休業中の学習サポートなど学力向上に向けた具体的な手立てとその結果の把握が可能となった。

○域内の小学校が、北海道教育委員会が行っている巡回指導教員活用事業などを活用することによって、授業づくりについての研究が活性化された。

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

○推進校においては、定期的な授業公開やホームページへの掲載を通して、指導方法や指導体制の工夫の在り方など事業の成果を普及した。

○アクションプラン推進協議会において、推進校の取組をまとめた「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善実践事例集」を作成し、域内の学校に配布した。

(2) 来年度以降の取組

学力調査の分析による課題解決のための指導方法の工夫・改善など平成22年度における取組の成果の全道的な普及・啓発等が十分でないことから、平成23年度は次の視点について改善・充実を図った事業を実施する。

- ・小・中学校が連携した取組の充実
- ・国語、算数・数学の授業力の向上
- ・チャレンジテストの活用の充実
- ・家庭における学習習慣の確立

Ⅱ. 推進校における取組事例

取組事例①

「活用」と「学習習慣」

登別市立幌別小学校

(1) 学校の状況について

本校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、国語科においては身に付けた「言語の能力」を活用する力、算数においては、「基礎的・基本的な知識・技能」の定着及び活用について課題があることが明らかになった。

このため、全国学力・学習状況調査の結果及び調査問題を分析し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを活用する力を高めるため、授業改善と学習習慣の定着を重視した取組を推進した。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

① 実態把握

4年間の全国学力・学習状況調査を活用し、調査問題や質問紙調査の解答状況について詳細に分析し、課題の明確化を図った。

② 実施計画

推進協議会において作成した「学力向上アクションプラン」を踏まえ、自校の課題解決の方策を焦点化した学力向上プランを作成するとともに、そのプランに基づき、各学級の児童の実態に応じた学級における改善プランを作成し、学級担任等の授業改善に向けた取組を具体化した。

③ 取組の概要

主に、「学ぶ意欲をはぐくむ」「活用する力を高める」「学習習慣を身に付ける」ことをねらいとし、具体的な指導方法・指導体制の工夫・改善に取り組んだ。

- ・各学級の改善プランに基づく全教員による研究授業の実施
- ・巡回指導教員による若手教員への指導助言
- ・北海道教育委員会作成のチャレンジテスト

トの全学級における活用

- ・長期休業中の学習サポートの実施
- ・学習習慣の確立に向けた「家庭学習の手引」の作成・配布

④ 取組の評価

- ・児童による授業評価や保護者アンケートを実施し、取組の前後の変容を把握
- ・全国学力・学習状況調査や業者の学力テストの結果、チャレンジテストの結果などによる客観的なデータにより取組の前後の変容を把握
- ・アクションプラン推進協議会への取組状況の報告

⑤ 成果の普及

- ・北海道教育委員会主催の教育課程研究協議会における発表
- ・公開研究会の開催
- ・教育フォーラムにおける発表
- ・「授業改善実践事例集」の作成・配布
- ・ホームページへの掲載

(3) 成果について

○全国学力・学習状況調査の調査結果の分析に基づき、授業改善を図ったことにより、指導方法、指導体制に焦点化を図った取組を行うことができた。

○巡回指導教員活用事業やチャレンジテスト、北海道の「調査結果報告書」を積極的に活用することにより、学力向上に向けた方策が具体的になり取組を一層充実させることができた。

○北海道教育委員会や市教育委員会、協力校等との連携により、取組の充実を図るとともに、推進校及び協力校のみならず成果を広く普及することができた。

(4) 来年度以降の課題について

授業改善に向けて、より一層の共通理解を図るため、相互に授業参観する機会を多く設定するなど、授業研究を中心に据えた校内研修を進めていく中で、全国学力・学習状況調査の課題の解決のための指導方法等の工夫・改善にかかわる実践的な取組を充実させていく。